

歴史を 探る

五條の

第145回

五條市内の古墳 (その4)

北宇智地域の古墳が小さく、少なくなった6世紀代。吉野川南岸では、当地で採れる結晶片岩を用いた横穴式石室が首長墓の埋葬施設として導入され、7世紀初めにかけて南阿田大塚山古墳(帆立貝形、全長30m)、コウモリ塚古墳(円墳、直径約10m)、狐塚古墳(円墳?)、黒駒古墳(円墳、直径約10m)が丘陵上に単独で築かれました。未調査の狐塚古墳を除く3基の古墳では、和歌山市の岩橋千塚古墳群などに特徴的な石室の構造が部分的に見られ、紀の川を介した文化の交流がうかがえます。

6世紀前半の南阿田大塚山古墳では、装身具、金銅装馬具、鉄製武器・武器、装飾付須恵器などが出土し、吉野川流域では卓越した首長墓といえます。しかし、同時期の奈良盆地や紀伊の横穴式石室を有する前方後円墳と比べると、墳丘・石室の規模は劣勢です。一方、阿太地域や阪合部地域の吉野

川北岸の丘陵地では、北宇智と同様、木棺直葬の小古墳が単独あるいは数基から十数基の集合で造られました。阿太では大阿太第13号墳、阪合部では釜窪大谷東原古墳と犬飼大師塚古墳が調査され、内容がわかっています。

馬具、製塩土器、特殊須恵器など個々に特徴的な副葬品はありますが、総じて品目・点数が少なく、首長を支えた集団の中堅クラスや、特定の区域で交通路の管理を特に任された者といった被葬者像が考えられます。奈良盆地南部と紀伊を結ぶ水陸の交通が重要度は変わりながらも維持され、五條がその要衝であり続けたことは間違いありません。

五條では、横口式石槨を有する7世紀中頃の勘定山古墳(三在町、円墳、直径約10m)を最後に、古墳の築造が終了しました。(終わり)

文化財課学芸員 前坂尚志
文化財課 ☎ 24・2011



釜窪大谷東原古墳で出土した土器
(奈良県立橿原考古学研究所編『釜窪大谷東原古墳』2009年より)

令和2年度秋季企画展 五條の古墳を掘る

時 ~12月13日(日) 9時~17時

※月曜日は休館

所 五條文化博物館

¥ ▼一般:300円 ▼高校・大学生:200円 ▼中学生以下:無料

問 五條文化博物館 ☎ 24-2011



近内4号墳で出土した四獣形鏡
(所蔵・写真提供:奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)

12月 図書館だより

問 市立図書館(水曜休館)

☎ 22-4133



図書館ブログ



蔵書検索

年末年始の休館

休 12月29日(火)~1月3日(日)

1月4日(月) 9時から通常通り開館します。

新刊本棚

おとなの本

メモ活

メモ活

memo BEST METHOD

上阪徹

上阪徹/著
学研プラス

毎月1冊、本を書く生活を10年以上続けている著者が、圧倒的なアウトプットの量と質を支える情報整理術「メモ活」を伝授。「メモ活」の基本原則から要約の仕方、速く正確に記録する方法、アイデアメモの取り方等を紹介する。

龍神の子どもたち



乾ルカ/著
祥伝社

おとうとのたからもの



小手鞠 るい/作
岩崎書店

小学2年生のあおいは本が苦手。でも、弟の冬馬はいつも絵本を読んでいる。風邪をひいて寝込んでいた冬馬の手にも、やっぱり絵本が。あおいには、どうしてそんなに絵本が大切なかわからず…。姉弟のあたたかな物語。

うごきません。



柴田ケイコ/絵
パイインターナショナル

うちの館から 見取り図案内其の百四拾参 登録有形文化財「藤岡家住宅見取り図案内」

令和2年6月。金剛山(葛城山)二上山に残る「葛城修験」の足跡が、新しく日本遺産に認定され、五條は、南に世界遺産「吉野・大峯修験」、北に日本遺産「葛城修験」という修験道の二大聖地を置く地域となりました。

修験道は、山岳信仰から生まれ、厳しい修行によって自然を祈ること目指しますが、修験道の開祖役行者が、法華経を埋めたとされる28箇所を経塚「葛城二十八宿」は、現在も行者たちの修行の場であると共に、地域の信仰や伝承と深く関わる聖地でもあります。

「葛城二十八宿」は、和歌山市の「友ヶ島」を(序品)第一番経塚とし、紀伊山脈を東進します。瀬之堂とも呼ばれる大澤寺(大沢町)は、役行者が行場として草堂を結んだと場所、第十九番経塚神福山のふもとにありますが、葛城修験の道は、ここで北に大きく進路を変え金剛山、葛城山、二上山を経て、山塊が大和川と出会う第二十八番札所「亀ヶ瀬(亀の瀬)」まで続きます。川の中に亀石があり、亀石の上流にある最後の経塚が、竜王神社です。

第二十経塚「石寺跡」、第二十一経塚「金剛山湧出岳」には、北宇智の金剛登山口から伸びる、小和道や久留野道を通って行くことができま。地福寺(久留野町)は、明治初年の神仏分離令を受けて廃された山上の寺院の重宝、転法輪寺の本尊法起菩薩像などを引き受けてお祀りしています。

修験道の行者たちが修行の証として山中の行場に取める木製の祈禱札を「碑伝」と呼びますが、藤岡家には、江戸時代の碑伝が200本残されています。『大和名所図会』寛政3年(1791年)には、金剛山上の大寺院のようすや、金剛山をこやかに登っている修験者が描かれていました。大峯修験道に比べ、越えやすい道であったのかと思います。同著には、「金剛山土産」についての記述もあります。「桔梗」と「藤葛」。桔梗の根は咳の生薬となり、藤や葛のツルは、縄に代わって使えました。「葛城の名義(ここ)に起こる」と、ありました。

館長 川村優理

【展示案内】
「葛城修験」〜里人ともに守り伝える修験道はじまりの地〜
時 12月22日(火)まで

こどもの本